

平成30年度実施施策に係る政策評価書

別紙2

(環境省30-22)

施策名	5-1. 基盤的施策の実施及び国際的取組					
施策の概要	生物多様性国家戦略を始めとする自然環境保全のための政策の策定、及びそのために必要な情報の収集・整備・提供を行う。また、国際的枠組への参加等を通じて地球規模の生物多様性の保全を図る。					
達成すべき目標	生物多様性国家戦略2012-2020に基づき、各種施策に必要な情報の収集・整備・提供、国民への生物多様性に関する普及啓発などの取組を進める。また、国際的枠組への参加を通じて、自然資源の保全、地球規模の生物多様性の保全を図る。					
施策の予算額・執行額等	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	
	予算の状況(百万円)	当初予算(a)	1,375	1,272	1,144	1,181
	補正予算(b)	0	0	0	-	
	繰越し等(c)	0	0	(※記入は任意)		
	合計(a+b+c)	1,375	1,272	(※記入は任意)		
執行額(百万円)	1,281	1,231	(※記入は任意)			
施策に関する内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)	生物多様性国家戦略2012-2020 (平成24年9月28日 閣議決定)					

測定指標	「生物多様性」の認識状況	基準値	実績値					目標値	達成
		16年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	-
		30%	46%	-	-	-	-	75%	
	年度ごとの目標値		-	-	-	-	-		
	生物多様性地域戦略策定済自治体数(都道府県)	基準	施策の進捗状況(実績)					目標	達成
		23年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	2年度	-
		18都道府県	35	39	41	43	43	47	
	年度ごとの目標		-	-	-	-	-		
	生物多様性国家戦略2012-2020に定める我が国の国別目標の関連指標の改善状況	基準	施策の進捗状況(実績)					目標	達成
		22年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	2年度	-
		-	54%	70%	74%	集計中	集計中	100%	
	年度ごとの目標		-	-	-	-	-		
全国の1/2.5万地形図面数に対する植生図整備図面数の割合[整備図面数/全国土図面数]	基準	施策の進捗状況(実績)					目標	達成	
	18年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	2年度	○	
	国土の35%	72%	77%	80%	84%	88%	100%		
年度ごとの目標		72%	77%	80%	84%	86%			

(各行政機関共通区分) 相当程度進展あり

＜生物多様性保全のための政策の策定及び必要な情報の収集＞

- ・愛知目標達成に向け、平成28年11月に、これまでの進捗状況を踏まえて一層強化する取組等をまとめた「生物多様性国家戦略2012-2020の達成に向けて加速する施策」を公表した。なお、我が国の国別目標の関連指標は、概ね改善傾向にある。国別目標の関連指標については、評価指標も含めて次期目標のもとでの測定に活用することを検討する。
- ・生物多様性地域戦略については、平成31年4月時点で把握しているものとして、43都道府県が策定しており目標に近づいている。
- ・植生図の整備図面数は、平成30年度末時点で、国土の86%の整備が完了し、着実に成果をあげている。なお、平成30年度から「(環境省30-①)環境に配慮した再生可能エネルギー導入のための情報整備事業」において実施している。
- ・平成28年3月に策定した「サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020」を推進するため、サンゴ礁生態系保全モデル事業の実施や中間評価会議及びシンポジウムを開催した。

<p>目標達成度合いの測定結果</p>	<p>(判断根拠)</p> <p><生物多様性に関する国民への普及啓発></p> <ul style="list-style-type: none"> ・内閣府世論調査によれば、平成24年度の生物多様性の認知度は56%と、調査対象の過半数に認識されていたものの、平成26年度には46%に低下した。 ・多様なセクターにより構成される「国連生物多様性の10年日本委員会」(事務局：環境省)において、各セクター間の情報交換を目的とした全国ミーティングや地域フォーラムの開催、委員会が推奨する連携事業の認定、生物多様性の認知度向上のための普及啓発ツールの利用促進等を実施した。 ・事業者の民間参画を促進するため、平成29年12月、8年ぶりに「生物多様性民間参画ガイドライン」を改定した。また、企業の生物多様性保全活動による貢献度の評価を試行した。 ・平成31年3月に、名古屋議定書の国内クリアリングハウスである環境省ABSウェブサイトのリニューアルし、諸外国のABS関連法令等に検索機能等を搭載した動的コンテンツを構築し、よりユーザーフレンドリーなウェブサイトとした。 ・ICRI（国際サンゴ礁イニシアティブ）が2018年を国際サンゴ礁年と定めたことを受け、国内では、26企業・団体をオフィシャルサポーターに任命したほか、市民参加型調査であるサンゴマップを広めるキャンペーン等を展開し、サンゴ礁保全の機運の醸成を図った。 <p><国際的枠組への参加></p> <ul style="list-style-type: none"> ・IPBES（生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学-政策プラットフォーム）第6回総会（平成30年3月・メデジン）及び関連会合へ専門家を派遣し、評価報告書等の成果物への知見提供・情報収集等を行った。また、国内連絡会を開催し、収集した情報等を専門家・他省庁等に共有した。 ・ICRI（国際サンゴ礁イニシアティブ）東アジア地域会合を平成20年から毎年開催し、ICRI東アジア地域サンゴ礁保護区ネットワーク戦略2010の実施を主導。平成28年度からは地球規模サンゴ礁モニタリングネットワーク東アジア会合を開催し、東アジアにおける地域解析の促進に貢献している。 ・生物多様性条約第14回締約国会議及び名古屋議定書第3回締約国会合に参加し（国連生物多様性会議 エジプト シャルム・エル・シェイク2018、平成30年11月）、交渉及び情報収集を行った。 ・南極条約協議国会議（平成30年5月・アルゼンチン）に積極的に参画することにより、南極地域の環境保護に向けた国際的取組に貢献した。
<p>評価結果</p> <p>施策の分析</p>	<p><生物多様性保全のための政策の策定及び必要な情報の収集></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生物多様性条約第6回国別報告書」を取りまとめ、今後取組を強化すべき国別目標が明確となったため、これらに対し重点的に対応し、愛知目標の達成を目指していく必要がある。 ・生物多様性地域戦略については、戦略未策定の都道府県に対し専門家派遣など人的支援を行い、戦略策定に係る支援を行っていく必要がある。 <p><生物多様性に関する国民への普及啓発></p> <ul style="list-style-type: none"> ・UNDB-J等による広報・普及啓発、自然とのふれあい体験の充実、民間参画の推進等を通じて、生物多様性の社会における主流化を推進するための取組を継続して進めていく必要がある。 <p><国際的枠組への参加></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性条約関連会合に関しては、我が国が議長となって採択された愛知目標の達成や、名古屋議定書の実効性のある運用、また生物多様性の新たな世界目標（ポスト2020目標）に関する議論等がある。また、国際サンゴ礁イニシアティブに関してはサンゴ礁モニタリングネットワークを通じた解析作業等がある。これらの国際的議論・作業に積極的に引き続き参加する必要がある。 ・科学と政策の統合を目指すIPBESの総会及び関連会合に積極的に参画することにより、地球規模の生物多様性の保全に貢献する必要がある。

<p>次期目標等への反映の方向性</p>	<p>【施策】</p> <p><生物多様性保全のための政策の策定及び必要な情報の収集></p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知目標の達成に向け不十分であると判断した国別目標を中心に取組の一層の加速を図るとともに、保護地域の拡張、希少種・外来種対策の充実を通じ健全な生態系の確保に取り組む。 <p><生物多様性に関する国民への普及></p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様なセクターと連携し、各団体が有する広いネットワークと現場とのつながりを最大限に活用し、国民への普及啓発を強化する。 <p><国際的枠組への参加></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性条約が掲げる愛知目標についてはその達成に向けて、またポスト2020目標については我が国の知見を適時かつ戦略的にインプットしながら、引き続き締約国会合等における議論に積極的に参加していく。名古屋議定書については、平成29年より我が国も締約国となったことを踏まえて、締約国会合及び関連会合に積極的に日本の知見をインプットし、我が国の実態を踏まえた適切な国際ルールを策定を求めていく。 ・IPBES作業計画2015-2019の成果物（成果文書）が計画に則り作成され、IPBES総会にて承認・公表されるように、IPBES総会や関連会合への専門家の派遣などを通じ積極的に日本の知見をインプットし、引き続き生物多様性分野における科学と政策の統合に向けた国際的取り組みの進展に貢献する。 <p>【測定指標】</p> <p><「生物多様性」の認識状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生物多様性の主流化」に関連する指標については現在検討中であり、次期国家戦略の策定に反映させることを検討中。 <p><生物多様性地域戦略策定済自治体数（都道府県）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性地域戦略の策定は、地方での取組を推進する有効な方策であるため、専門家を派遣するなど人的支援の実施により計画策定都道府県数の向上を図る。 <p><生物多様性国家戦略2012-2020に定める我が国の国別目標の関連指標の改善状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連指標群について関係省庁とも連携して適切に点検・管理を実施しているところであり、次期国家戦略の策定に反映させる。 <p><全国の1/2.5万地形図面数に対する植生図整備図面数の割合[整備図面数/全国土図面数]></p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き全国整備を進めるとともに、整備後の更新等にかかる方向性についても整理中であり、次期国家戦略への反映を検討中。 				
<p>学識経験を有する者の知見の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サンゴ礁生態系保全行動計画の進捗中間評価や現地調査等にあたり、学識経験者の参画を依頼し、学識経験者の知見を活用した。 				
<p>政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地球規模生物多様性概況第4版 ・平成26年度環境問題に関する世論調査 ・平成30年度国際サンゴ礁イニシアティブ及び地球規模サンゴ礁モニタリングネットワーク東アジア地域解析推進調査業務報告書 ・平成30年度サンゴ礁生態系保全モデル事業報告書 				
<p>担当部局名</p>	<p>自然環境計画課</p>	<p>作成責任者名 (※記入は任意)</p>	<p>植田 明浩</p>	<p>政策評価実施時期</p>	<p>令和元年8月</p>